

8. 写真



6月5日

08:28 木曾福島到着

駅前の観光案内所で歩行ガイドブック「中山道を歩く」を頂いた。木曾観光連盟のメンバーが実地に歩いてまとめたもので、お陰でほとんど迷うことなく、中山道をトレースできた。



タクシーで関所跡に行き、そこから歩行を始める。ほおば祭で観光ボランティアをしていた木村美津江さん（観光案内所にお勤め）に歩行証明を書いてもらった。

09:30 同関所を出発



福島宿：ほおば祭でいろんな屋台が並び、朝から賑やか。朴葉巻き（朴葉にくるんだ餡餅とおこわ）とカリカリ梅を買った。

案内詰所で菅笠を買いたいと言うと、電話で問い合わせさせてくれたが、見つからず。



11:00 御嶽神社付近

心配した天候も、なんとかもちそうで、鯉のぼりが気持ちよく泳いでいた。

期待した御嶽は、頂上のあたりがちょっとだけ見えた（と思う）



11:50 木曾の栈橋（かけはし）

橋の手前左、国道 29 号の道路下に昔の栈橋の遺跡（石垣）がある。かけはしは岩壁に沿って丸太を組んだ棧のような道であったという。まともな道をつくることのできない難所であった。



13:30 寝ざめの床

前方の建物が越前屋。江戸時代から続く蕎麦やである。いまは坂下の国道 19 号線に面した所へ移っている。



滑川（木曾川の支流）

このような深い峪が次々に現れる。大雨になれば水が暴れて、これらの支流も交通の妨げになっていたのだろう。



15:50 立町諸原橋

吊橋の中央で休憩していると、ワンちゃんをつれて田上清さんが通りかかった。しばらく談笑。



6月6日 8:30 須原宿はずれ。 前日はスポーツ公園近くにある民宿いとせに宿泊。この宿場で唯一の宿泊施設。

街のいたる所に水舟（木をくり抜いた湧水槽）があり、ほっとする。 蔵元でソマ酒を買った。



9:40 岩出観音まえ。

地元に住む寺社下（じしゃげ）見さんご夫妻と。向こうに見えるのが岩出観音。美しい建造物である。ご夫妻も素敵でした。



10:20 大桑駅踏切付近。正面に見える山は中央アルプス、木曽駒ヶ岳。ここで大崎さんに出会う。鬼太郎のアニメを観ていたという。

すこし歩いて大桑道の駅で菅笠を見つけた。五平餅で軽く昼食とする。



13:00 十二兼（じゅにかね）駅付近。

中山道が鉄道と国道で寸断され、水路トンネルに仮設してある歩道を渡る。増水したら通行止？踏切のない線路を渡る個所もある。たぶん地元住民の地道なのだろう。



14:15 柿其橋付近。

藤村「夜明け前」に「木曽路はすべて山のなかである。あるところは岨づたいの行く崖のみちであり・・・」と書かれた場所。 木曽路屈指の難所「羅天の栈道跡」が左の崖上にある。



16:00 南木曾付近。和合

下校途中の南木曾小学校の子供たちと道連れになる。 和合まで帰る小3の木和田拓海君が江戸中期の国学者園田先生の家案内してくれた。



16:20 園原先生宅。代々神官のお家柄で、ご先祖に木曾の歴史を書き遺した国学者がおられる名家。現当主園原大進さんが家を案内して下さいました。神官の住居として貴重な遺産であるが、冬が厳しくて、いまは住んでおられないとのこと。



平野がほとんどない木曾では、イネは高地の棚田でつくられる。旅行者には美しくのどかにみえる景観は、当時の人たちにとっては、生き抜くための厳しい砦であった。



目的地、妻籠宿にはいる。

入口に留番所跡（昔の交番）があり、続いて高札場、そして宿場の街並みとなる。

想像どおり、塵ひとつ落ちていない、端正な宿場街の佇まいである。



17:40、本陣跡に到着。ここが今回の歩行の目的地である。これ以降は、観光のための非公式歩行となる。

「夜明け前」の青山半蔵の嫁、お民さんはここから馬籠本陣に嫁入りした。



今日の宿、阪本屋。築150年の歴史遺産である。間口は狭いが奥行きがあり、外国からの客もあるという。

明治維新にかかわった勤皇の志士や幕府方の藩士等も泊ったのでは。



6月7日

観光案内所。8時まえであったが、開いていたので立ち寄り、妻籠を愛する会の常務理事藤原義則さんにお会いした。この会が街並み再生の推進推進母体である。1時間余話しこんで、後からまた資料を送って頂いた。



妻籠寺下地区 40年前にここで妻籠宿復現が始まった。全国の街並み保存の原点とも云うべき場所である。電柱撤去に関しても、ここが先進事例となり、後に続く保存活動でも電柱が取り除かれるようになった。



おしゃごじ（御社護神、御社宮司）さま
一言でいえば、万能の守り神さま。 全国に同類があるそうで、原始民間信仰との関係の指摘もあるそうだ。お酒の神でもあるようなので、私は家内安全とうまい酒を飲めるように祈った。



神居木（天狗の腰掛）
幹から直角に出た枝に天狗が腰かけて下を見下ろしていた。 左右対称に、両側に枝が出ているのはめずらしい。 粗相があると祟りがあるといわれ、猟師たちは恐れて近寄らなかったそうだ。



熊除けの鐘 所々にこのような鐘が設置されている。 歩行者はこの鐘をならして自分の存在を熊に知らせ、鉢合わせのトラブルを回避する。ほかに、レンタルの鈴があり、行き先で返却できるシステムもある。



11:00 一石枳立場茶屋跡 現在は牧野家住宅を移設して営業。管理しているのは妻籠を愛する会副理事長の鈴木省吾さん。隣に白木改番所跡（輸出する檜材を一本々々検査した）。大きな「ナンジャモンジャ」が満開だった。



なかに招じ入れられてお茶と甘い梅漬けを馳走になり、1時間ほどお話を聞いた。 話に熱が入り、正調木曾節を唄ってくださり、お返しに、鳥取の三朝小唄をうたった。愛する会の皆さんの並ならぬ熱意とご努力を感じた。



12:15 馬籠峠（標高 801m）
看板の向かい側に茶店があり、ヨーロッパ人とおぼしき男2人が休んでいた。 我々と反対方向に下るとのこと。 予定時刻をかなり遅れているので、素通りした。



13:20 馬籠宿入口
NHK朝の連続テレビ小説「おひさま」でなじみの「仲良し地藏さん」。 途中にもいろいろのスタイルのものがあ、おもわず顔がほころぶ。



15:00 藤村記念館（馬籠本陣跡）

島崎藤村は馬籠宿の旧本陣にうまれた。本陣の建物は大火でほとんど消失したが、祖父母の隠居所だけが残った。島崎古巡さんの特別展を開催中。理事の齋藤稔さんにお会いした。



馬籠宿榊形付近より恵那山を望む。

「お民、来て御覧。きょうは恵那山がよく見えますよ。妻籠の方はどうかね。木曾川の音が聞こえるかねえ」「ええ、日によってよく聞こえます。私どもの家は河のすぐ近くではありませんけど」「そうだろうねえ。ここでは河の音は聞こえない。そのかわり、恵那山の方で鳴る風の音が手に取るように聞こえますよ」

夜明け前、第1章3



16:20 落合宿への石畳

予定より遅れたので、落合宿、中津川宿をめざして、ひたすら歩く。下りの石畳が疲れた足にこたえる。昔の人にも、やはり辛かったのでは。



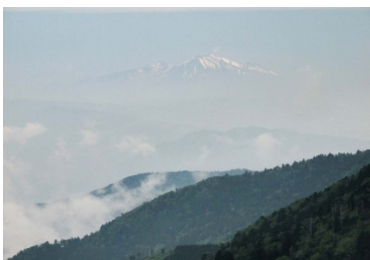
17:00 落合宿本陣跡

落合は妻籠や馬籠より裕福だったろうか。立派なお屋敷である。



18:15 中津川駅へ到着

与坂で中山道と別れて線路沿いに近道を歩いたが、宿（プラザホテル中津川淀川）の前が中山道であった。



6月8日

中津川でレンタカーを調達し、神坂峠（1600m）に上り、恵那山第1ピークまで登る。御嶽山が中空に浮かぶ。

北アルプス、中央アルプス、八ヶ岳、南アルプスも遠望できた。



富士見台（山伏岳=1739m）

山頂にいた30分ほどの間だけ高気圧が広がり、恵那山が眼前に迫った。高くないが（標高2190m）深田久弥が百名山にえらび、上高地を有名にしたウェストンも登った名山である。

4日間の木曾路の旅もここで終わる。山が「よくきたな」と云ってるような気がした。